

令和六年度（前期日程）

国語（国語総合・現代文B・古典B）

注意事項 一、試験開始の合図があるまで、この問題冊子の中を見てはいけません。

二、この問題冊子は、十四ページあります。

試験中に問題冊子の印刷不鮮明、ページの落丁・乱丁及び解答用紙の汚れ等に気付いた場合は、手を挙げて監督者に知らせなさい。

三、すべての解答用紙に受験番号を記入しなさい。

四、解答は、すべて解答用紙の指定のところに記入しなさい。

五、解答用紙はすべて机の上に出しておくこと。机の中に入れてはいけません。

一

次の文章を読んで、後の問いに答えよ。なお、設問の都合で本文の一部を改めている。

著作権の関係上公表しません

著作権の関係上公表しません

著作権の関係上公表しません

著作権の関係上公表しません

著作権の関係上公表しません

〔注〕

- 1 対症療法——病氣の原因に対する治療ができない場合や、急を要する場合などに、病氣の結果である症状を除いて治療しようとする方法。また、比喩的に、根本的に解決するのではなく、現れた状態に応じて行う処置のしかたをいう。
- 2 ゲノム編集——遺伝情報の全体・総体を意味するゲノムの一部を計画的かつ効率的に改変すること。

問 二重傍線部①～⑥のうち、カタカナは漢字に、漢字はひらがなに改めよ。

問 波線部(ア)「牙を剝く」、(イ)「無尽蔵」とあるが、それぞれどのような意味か。簡潔に答えよ。

問 傍線部(1)「こうした問題はあくまでも現代に特有のものである」とあるが、どういふことか。「こうした問題」の指示内容を明らかにして、わかりやすく説明せよ。

問四 傍線部(2)「地球という表現はミスリーディングである」とあるが、筆者が「ミスリーディング」と述べる理由を、本文の主旨に沿って、簡潔に説明せよ。

問五 傍線部(3)「現在世代による自然への影響が、未来世代にとっての自然にまで及ぶようになった」とあるが、どういふことか。「技術」という語を用いて、簡潔に説明せよ。

問六 傍線部(4)「自然に「甘える」ことができる」とあるが、「自然に「甘える」とはどういうことか。本文の主旨に沿って、わかりやすく説明せよ。

問七 傍線部(5)「自然の模倣」という技術観とあるが、この「技術観」の前提となる考え方はどのようなものか。それについて端的に述べた箇所を、本文中から三十五字以内で抜き出せ。

問八 空欄 A に入る最も適当な語句を、次の①～⑤のうちから一つ選び、その番号を記せ。

- ① 実在的な状況                      ② 現実的な条件                      ③ 空想的な設定                      ④ 人工的な環境                      ⑤ 創造的な装置

問九 傍線部(6)「実験は、自然を理解するために、自然に対して技術によって働きかけることである」とあるが、どういうことか。本文の主旨に沿って、わかりやすく説明せよ。

問十 傍線部(7)「人間によって支配され得る対象」とあるが、どういうことか。その説明として最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選び、その番号を記せ。

- ① 人間が「実験」を通して神のような能力を手に入れることによって、自然のあり方を意のままに創造したり、破壊したりすることができるようになったということ。
- ② 人間自身によってコントロールされ、管理される「実験」によって、自然の本質が明らかにされるようになったため、自然は人間の知に従うものになるということ。
- ③ 人間が自然の本質を解明するために行う「実験」は、客観的な科学的方法によって支配されるために、そこから導き出される自然は客観的なものとなるということ。



- ④ 人間の行う「実験」は、ありのままの自然の法則を解明できるようにコントロールされるので、自然は人間自身の視野のうちに収められるようになったということ。
- ⑤ 人間が管理する「実験」は、必ずしもありのままの自然を反映するものではないために、自然の本質というものも人間自身を描き出す自然像に依存するということ。

問十一 本文の主旨に合致するものを、次の①～⑥のうちから二つ選び、それぞれの番号を記せ。

- ① 地球環境と人間自身の身体は、人間が作り出したものではないという意味で「自然」と捉えられるが、その自然に対して人間が修復不可能な変更を加えるようになったことが、未来倫理の求められる原因である。
- ② 現在世代は未来世代も生きることになる地球に影響を与えることを通して、未来世代の生活を脅かすだけでなく、その身体にも影響を及ぼし、文化や生活様式を一変させてしまうような可能性を有している。
- ③ 自然に対して人間を超えた力を認める自然観においては、自然は絶対的で超越的な存在として崇拜されており、そうした自然の定めに従って生きることが人間にとつても文字通り自然なこととされた。
- ④ 自然を観察することによる近代以前の研究では、純粋に自然の働きを探究することが目指されていたが、近代以降、技術を用いた実験によって解明された自然の本質を利用することが求められるようになった。
- ⑤ アリストテレスによれば、技術は自然の模倣から生み出されるため、基本的に自然の摂理や法則に従うものであり、その進歩や発展も、自然それ自体の自己展開を人間が受容することによつてもたらされる。
- ⑥ ベーコンはそれまでの自然観を否定して、自然の本質に迫るためには、できる限り自然の状態をそのままに再現した実験装置を用いることが必要であるとし、自然を正確に観察することの重要性を主張した。

二

次の文章を読んで、後の問いに答えよ。

著作権の関係上公表しません

『沙石集』による

[注] 1 下総国——現在の千葉県北部にあたる地方。

2 御家人——鎌倉時代、將軍に直屬する主従關係を結び、従者となつた者。御恩と奉公の關係で結ばれる。

3 領家の代官——莊園の領主から依頼されて實際に莊園業務に当たたる者。

4 相論——所有權などをめぐつて争うこと。

5 泰時——北条泰時。鎌倉幕府第三代執權。

6 御代官——將軍の代理。すなわち執權のこと。ここでは泰時が長期間、執權をつとめていたということを示す。

7 地頭——鎌倉幕府が全国の莊園を管理支配するために新たに設置した職。御家人が任命される。領家の代官とは対立することが多い。

8 叶はぬものゆゑに、一言も陳じ申す事にて——自分の主張が通らないと、一言でも釈明を申し立てるもので。

9 未進——未納。

10 『心地観経』——『大乘本生心地観経』という經典の略称。

11 発露懺悔——罪をあらわして悔いること。

問一 波線部(イ)「互ひにさもと聞こえき」、(ロ)「正直の人にておはするにこそ」をそれぞれ現代語訳せよ。

問二 傍線部(1)「よそよりこそ負けに落とさるれ、我と負けたる人いまだ承らず」とはどういうことか。わかりやすく説明せよ。

問三 傍線部(2)「笑ひつる人々も苦りてぞ見えける」とあるが、なぜ人々はそのような様子を見せたのか。泰時との違いに着目した上で説明せよ。

問四 傍線部(3)「情けありける人」とは誰のことか。該当する人物を、本文中から抜き出して記せ。

問五 傍線部(4)「これこそ、負けたればこそ勝ちたれの風情なれ」とはどういうことか。本文の内容に即して説明せよ。

問六 傍線部(5)「されば、人は物の道理を知り、正直なるべきものなり」の一文から始まる段落を説明したものとして最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選び、その番号を記せ。

- ① 前半の泰時の話に連続して信仰に関する自身の体験談を語ることで、論に説得力を持たせようとしている。
- ② 前半の泰時の話を否定した後、仏教の經典を引用しながら正直に生きていくことの大切さを述べている。
- ③ 前半の泰時の話をさらに発展させて、人はどうあるべきかということについて仏教の観点から論じている。
- ④ 前半の泰時の話に対して疑問を提示し、人のあり方について仏教の經典に照らし合わせつつ考察している。
- ⑤ 前半の泰時の話をまとめた上で、仏教の問題へと話題を転換させ前半とは異なつた主張を展開させている。

問七 本文の内容と合致しないものを、次の①～⑤のうちから一つ選び、その番号を記せ。

- ① 領家の代官と地頭との所有権争いはなかなか決着がつかないため、鎌倉で話し合うこととなり、泰時もその場に同席した。
- ② 領家の代官側が物の道理をきちんと説明したところ、地頭は特に反論することもなく、負けたと泰時に向かって発言した。
- ③ 泰時はお互いの主張をもつともだと聞いていたが、領家の代官の最後の発言に対し地頭がすぐ負けを認めた態度をほめた。
- ④ 領家の代官は、自分は物の道理を主張するつもりだったが、地頭に意地悪をしようと思つたわけではないと弁解した。
- ⑤ 罪は隠そうとするとますます大きくなってしまいが、罪を明らかにして悔い改めればその罪も消えると經典は記している。

国語の試験問題は次頁に続く。

次の文章を読んで、後の問いに答えよ。なお、設問の都合で返り点・送り仮名を省いたところがある。

著作権の関係上公表しません

(『呂氏春秋』貴直論による)

〔注〕

- 1 秦繆公 春秋時代の秦国の君主。穆公とも記す。
- 2 戎 —— 中国の西方や北方にいた遊牧民族。
- 3 彊大 —— 強大なこと。
- 4 遺 —— 送る。
- 5 女樂二八 —— 樂舞を行う女性十六人。
- 6 良宰 —— 腕の良い料理人。
- 7 左右 —— 王の身近な臣下。
- 8 秦寇 —— 秦の軍隊。
- 9 扞弓 —— 弓を引く。
- 10 樽 —— 酒樽。
- 11 不知 —— (泥酔して秦に攻め込まれたことが)わからない。

問一 二重傍線部(ア)「教」、(イ)「因」、(ウ)「果」、(エ)「已」は、ここではどのように訓読するのが最も適当か。その読み方をそれぞれ平仮名で答えよ。ただし、現代仮名遣いでもよい。

問二 傍線部(1)「左右有言秦寇至者」は、「さいうしんこうのいたるをいふものあり」と訓読する。解答用紙の白文に訓点(返り点・送り仮名)を書き入れよ。

問三 傍線部(2)「射之」について、主語と「之」を明らかにした上で、この時の状況を説明せよ。

問四 傍線部(3)「未擒則不可知」について、この文を書き下し文に改めよ。

問五 波線部「遺之女樂二八与良幸」とあるが、秦の繆公が戎王に送った目的を説明せよ。

問六 本文の主旨に合致するものを、次の①～⑤のうちから一つ選び、その番号を記せ。

- ① 秦の繆公がしかけた策略にはまるような戎王は、誰が何を言おうと簡単に信じてしまう。
- ② 秦の繆公がしかけた策略を甘く見るような戎王は、誰が何を言おうと相手にすることはない。
- ③ 秦の繆公がしかけた策略を逆に利用するような戎王は、誰が何を言おうと理解しようとしなない。
- ④ 秦の繆公がしかけた策略にすぐ気がつくような戎王は、誰が何を言おうとすべて疑ってしまう。
- ⑤ 秦の繆公がしかけた策略に気がつかないような戎王は、誰が何を言おうと聞き入れることはない。